

やあ  こんにちは

プロゴルファーであり、親しみやすい語り口が人気の解説者としても活躍する、羽川豊さん。学生時代のことや、プロになって数度のスランプを乗り越えてきた経験を語る様子には、気さくな人柄がにじみ出ています。そのコメントの多くには、ビジネスにも通じるさまざまなヒントが散りばめられています。



プロとして、
これからも勝つことに
こだわり続けたい

プロゴルファー 羽川豊さん

先日、16回目のホールインワンを決めたという羽川プロ。一度でいいからあやかりたい！(住商こみゆにてい編集部)

攻め続けるゴルフで リスクをマネジメント

坂野 羽川プロは、プレーヤーとして、解説者として、世界中を飛び回っていらつやいますが、私たちも出張や移動が多いので、体調管理をどのようになさっているのか気になります。ぜひ、教えてください。

羽川 移動中に寝るんです(笑)。起きたその時、その場所から一日

がスタートすると思えばいい。他には、生ものは食べない、暴饮暴食はしないという基本的なことを守っています。

草野 私は医療従事者として社内の診療所に勤務しています。社員の健康増進に役立つヒントや、ご自身で実践している日課などはありますか？

羽川 何か目標を持つといいのではないのでしょうか。私より年上のプロたちも結果を出すという目標がありますから、時間をやりくりしてジムに行ったりしています。私も「走れるうちはまだやれる」と思っているんです。この冬は毎朝4〜5キロ走りました。「今年は調子がいいな」と思っていたら、4月の第1戦で肉離れしてしまっ(笑)。でも、日頃走っていたから軽く済んだのだと思います。

城台 私の業務はリスクマネジメントなのですが、ゴルフコース上のリスク管理ができていないので(笑)秘訣を教えてください。

羽川 どごまでも攻めていけばいいんですよ。ゴルフはとても波のあるスポーツなので、悪いときにどう対処して上昇気流に乗るかが大切です。怪我をしないように自己管理しながら「ストロークでも良くなるよう、積極的に攻めていくことが大事だ」と思っています。

す。私は1981年に初優勝した後、2〜3年調子が良かったのですが、一度「トスーン」と落ちるんです。91年にカムバックしますが5年後にまたスランプになり、手が動かなくなる「バッテリープス」になりました。その後、復活するんですが、また落ち込んで試合に出られなくなり、2000年にクラブを一度置きました。そのときに、何の根拠もないんですが、「絶対いつかは良くなる」と諦めなかつたんです。本でもいいし、人との出会いでもいいし、希望を捨てなければ、いつかきつと良くなるきつかけはあるはず。そう思い続けたからこそ、50歳になって再び戦えるようになったときにはとても感慨深いものがありました。

常に「ヤードでも前へ」という 気持ちを持ち続けていきたい

坂野 ゴルフでは天国も地獄も経験されたんですね。

羽川 皆さんの仕事でも、多少の違いはあっても同じではないですか？それまでの状況がガブリと変わって自分の思い通りにいかなくなることもある。誰もが、そうした中で必死に戦っているわけですよね。
坂野 神社に行って神頼みということもあります(笑)。

羽川 私たちは個人で戦うわけですが、プロとして結果を出さなきゃいけない。ですから、「ダメでも」と「どう気持ちでぶつかっていくかが大事なんです。」「まあ、いや」と手を抜いてはそこで成長が止まってしまうので、良いパフォーマンスをしても「まだまだ」と思うこと。
城台 スランプを抜け出すには、やはり精神力だったんですね。
羽川 スランプのときは、メンタルトレーニングをしたり海外でレッスンコーチを付けたら、いろいろと模索しましたが、なかなか結果にはつながりませんでした。ところが、「フォームの軸がずれてるね」と、あるプロの何気ない一言が、すっと心に入ってきたんです。それから打てるようになったんですね。やはり、すつと諦めない気持ちがあったからこそ、だと思えます。勝負の世界は、いかに精神力を保つかにかかっています。

ゴルフは、人と人との 関係を深める潤滑油

坂野 私は、上海やバンコクなど

インタビュー



鉄鋼原料部
坂野 和則さん



リスクマネジメント
第三部
城台 絵麻子さん



人事厚生部
草野 茜紀子さん

(はがわ・ゆたか) 1957年生まれ。栃木県出身。高校1年生でゴルフを始め、79年、専修大学在学中に「日本学生ゴルフ選手権」で優勝。翌年プロテストに合格し、81年に「日本オープン」で優勝。82年には4大メジャー大会の一つ「マスターズ」で15位と健闘し、「世界を代表するレフティ(左打ち)」と称される。98年からはゴルフのテレビ解説者としても活躍。2016年に母校の専修大学ゴルフ部監督に就任し、後進の指導に力を注ぐ。



提供:日本プロゴルフ協会

第56回日本プロゴルフシニア選手権大会 住友商事・サミットカップ

今年も羽川プロをはじめ、昨年優勝したP.マークセンプロや、今年シニアツアー初参戦の川岸良兼プロなど多数の選手が出場予定です。大会の様子はBS朝日などでも放送の予定です。詳細は今後掲載のイントラネットの情報などをご確認ください。

日時:10月5日(木)~8日(日)

場所:サミットゴルフクラブ

(茨城県石岡市)



インタビューを終えて

■羽川さんの「決して諦めないこと。もがき続けていれば、バットとひらめく瞬間が訪れる」というお話は、ゴルフだけではなく仕事や人生にも通じるものがありました。即興レッスンを受け、私自身のスランプ脱出の瞬間も間もなくです。(坂野)

■体調管理や体力維持のために努力を惜しまず「どんなときもあきらめない」という力強い言葉がとても印象的でした。また、解説のときも、学生にゴルフを教えるときも、常に相手の立場に立って考えておられ、素晴らしいと思いました。(城台)

■とても偉大な選手でありながら、気さくなお人柄で楽しいお話を伺うことができ、ますますファンとなりました。未来のプロゴルファーの育成にも力を入れておられ、指導者としての姿勢にも感銘を受け、非常に勉強になりました。(草野)



気持ちよくプレーできます。顔見知りの関係者も増えて気合いの入る試合です。
坂野 最後に、超えてみたい目標や抱負を教えてください。また、住友商事社員への一言もお願いします。
羽川 プロとしてやはり勝つことにこだわりたいですね。「もうやったら飛ぶの？」というも聞いてくる84歳の知り合いがいるんです(笑)が、何歳になっても、常に前へ、前へ、自分を超えていきたい。そして、ゴルフ界への恩返しの意味を込

めて、自分たちの持つノウハウを進んで伝えていくことも今後の抱負です。ゴルフにおいても、人生においても、自分に合っていないのに続けてしまっている、または合っていると勘違いしていることであると強く思います。それが、一つ新しく良いものが加わることでグンと伸びることがあります。皆さんも、たまには発想の転換をすることが必要だと思えますね。広い視野を持つことと、前向きでいることが、たとえ壁にぶちあたっても力になるんじゃないでしょうか。

教えて！ 羽川プロ！

草野 ゴルフをする機会が少なくても、上達するコツはありますか？

羽川 素振りは毎日やってください。まず、壁の近くに立って両足はあまり広げない。そして、肘をベルトの高さくらいにして体を1本の筒だと思って振ると、回転が出て距離も飛ぶようになりますよ。



の駐在時にゴルフ環境が良くて、その時にゴルフの面白さを知りました。
羽川 ゴルフは商社勤めの人にとっても、お客さんとの良い潤滑油ですよね。私が最初に商社の人と接したのが、大学時代に日本代表としてアジアでの大会に参加したときのこと。現地に駐在している商社の人たちが、担当を決めて食事会などを開いて温かく応対してくれました。皆さん、仕事もバリバリして、週末になるとゴルフをして。おいしいものもよく知っているし時間の使い方がうまいですよ。
城台 ゴルフがもっと気軽に楽しめるというのですが。
羽川 楽しむゴルフをするなら、例えば2打目でもティーアップ

OKとか、自分たち用のルールを作ってもいいと思うんです。ある程度うまくなってきたら競技用のルールにすれば、楽しみながら上達できると思えます。女性にも、ファッションなども含めてもっと楽しんでほしいですね。
監督、解説者として「伝える」大切さを実感
草野 あのとときの厳しさを経験したから今まで踏ん張れた、ということはありませんか？
羽川 高校の3年間は、ゴルフがうまくなることしか考えていなかったですね。毎日5時間くらい打って、どんだんのめり込んでいった感じなんです。あの頃がなかったら、プロにはなっていなかったと思います。大学時代のゴルフ部では、坂道ダッシュとか厳しいトレーニングを重ねました。誰かがミスすると、連帯責任で正座させられてお説教でした。また、自分がキャプテンになったときには、伊豆大島で合宿したんですが、島を選んだのは途中で皆が逃げ出せなと思ったからなんです(笑)。その合宿では、毎日40キロメートルの距離を、一生懸命に自ら先頭で走りました。結果としてその後の試合で優勝でき、達成感を味わえましたね。合宿で懸命

についてきてくれた2年生が、優勝バットを決めてくれたのもうれしかった。やはりリーダーは、自分がやりきったこと皆がついてきてくれるものだと思います。
城台 専修大学ゴルフ部の監督でもいらつしゃいますが、特に学生たちに伝えたいことはありますか？
羽川 「4年間で何か一つ見つけて卒業しなさい」と言っています。全員がプロになるわけではないので、たとえ違う道に行ってもその人らしい力を発揮できるはず。特に人前できちんと話せること、「人に伝える力」をつけて欲しい。ゴルフでもビジネスでも、どうしてそうなのかのプロセスを伝えることが大事で、それがないと的確なアドバイスもできないし、成長も難しいからです。
城台 いつも羽川プロの解説を楽しみにしていますが、どんなことを心掛けていらつしゃいますか？
羽川 ありがとございます。自分のこれまでの経験を生かして、自分がプレーするつもりで、苦しいときの対処法などを伝えるようにしています。それが、見ている方のプレーの参考になれば、また、テレビでは良いシーンがクローズアップされがちですが、プロがどれだけ厳しい状況で戦っているかなども伝えることで、ゴルフの醍醐味も



深まると思っています。
広い視野を持つことが、きつと力になる

草野 今年も10月に「サミットカップ」がありますが、意気込みを聞かせてください。
羽川 今年で5回目ですが、いつもコースの整備が行き届いていて